

近畿大学東洋医学研究所活動報告

教 授	新谷卓弘
客員 教授	吉川雅之
講 師	森山健三
助 手	中尾紀久世
非常勤医師	平野智子 陣内里佳子
研 究 員	高屋 豊 泉谷 悟 天津朗典 大島明良
研 修 員	辻 智之 前嶋拓也 晃野永士 鈴木けい子
附属診療所薬局	
技術科長	月岡康行
技術係長	曾和智子
薬剤師	奥平恭子 上野安由美
調剤補助員	川端寿代

概要

1. KAMPO EYES シンポジウムについて (平成 20 年度を振り返って)

2002 年 5 月に KAMPO EYES シンポジウムを立ち上げた。この会の趣旨は「医学と薬学の有機的な連携を基本として、歴史上の事実は正しく、新しい情報は早く、かつ分かりやすく、明日からの臨床に役立つ幅広い内容を提供することにある。総会は年 1 回、薬局部会は年 4 回、実地臨床分科会は年 1 回、シンポジウムの機関誌を年 6 回発行している。平成 20 年度は新谷が第 25 回和漢医薬学会学術大会の実行委員長を拝命した為、総会と実地臨床分科会を休止し、それに代わり 2008 年 8 月 30 日に第 25 回和漢医薬学会学術大会（大阪）において市民公開講座の共催を行った。講座のテーマは「アンチエイジングで健康長寿に」で、山田秀和先生（近畿大学医学部奈良病院皮膚科・近畿大学アンチエイジングセンター）に「アンチエイジングドック」を、荻田幸雄先生（大阪市立大学）に「すこやかに生きる－女性と紅参－」を、村岡修先生（近畿大学薬学部・薬学総合研究所）に「元気に生きる－砂漠の人参“カンカ”－」をご講演いただいた。司会は森山が行った。なお、薬局部会は例年通り開催した。

2. 東洋医学研究所附属診療所臨床部門の活動状況について

自費診療は煎剤を主に使用し、月・火・木・金曜日及び第 1・3・5 土曜日の午前に実施している。この結果、自費診療による外来患者が一日平均 25 名弱と徐々に増加して来たが、さらなる増患を期して 2004 年 3 月から保険診療の漢方外来(週 2 回、月曜と火曜、再診のみ、エキス製剤で対応)も実施している。

鍼灸治療は需要が高まり、2005 年 4 月より週 3 日から 4 日へ枠を拡大した。主に、関節リウマチ、運動器障害の患者に対して施術している。

検査では MC-FAN を駆使して微小循環系の評価を、唾液アミラーゼ活性測定器でストレスの評価を実施している。

3. 東洋医学研究所附属診療所調剤室の活動状況について

現在薬剤師 4 名（常勤 2 名、非常勤 2 名）、調剤補助員 1 名（非常勤）のスタッフで業務を行っている。調剤室の面積は 113.25 平方メートルあり、それぞれ受付・書記、製剤品棚を配した部屋及び生薬煎剤調剤室、生薬粉末調剤室、製剤・煎剤調製室、生薬・製品倉庫、生薬標本・資料室、生薬・製品試験室にわかれている。

現在の採用生薬および製品は刻み生薬（167 品目）、エキス製剤（83 品目）、丸剤（9 品目）、軟膏剤（2 品目）であり、また、現在使用している煎剤は 394 品目である。次に剤形からみた使用内訳では、煎剤（89.55%）、丸剤（2.92%）、散剤（0.37%）、外用剤（0.04%）、エキス製剤（7.12%）となっている。

主な業務は薬品管理業務としては生薬（刻み、粉末）および製剤品の品質検査、発注、検収、在庫管理などである。薬価計算業務では各処方および加味生薬の薬価の算出を行っている。調剤業務には外来と入院がある。製剤業務では主に煎剤、散剤、軟膏剤などの予製剤を調製している。漢方薬情報収集業務では、生薬薬理文献の収集および解析、漢方方剤治験報告の収集および解析、原本から処方中の配合生薬および分量の確認などを行っている。試験・研究業務では、漢方方剤エキス化の研究、外来漢方調剤システムの研究、入院用漢方調剤システムの研究、古典からみた処方の正しい運用についての試験研究などを行っている。

啓蒙活動としては、出版分野では漢方医家向け

生薬薬理解説書，漢方方剤解説書，処方集の発行などを行っている。また，教育に関しては専門職者及び一般市民への正しい漢方の啓蒙を行っている。また，薬学部学生に対し病院実習の一環として東洋医学に関する実習および講義を行っている。

教育活動

現在，3年次の医学部学生に対し「薬理学コース(東洋医学)」として授業を6コマ担当している。また，同大附属看護学校助産学科において「母子の健康：生活科学～母子の健康と東洋医学」として授業を5コマ実施している。その他，学外の医師の臨床研修を受け入れ，日本東洋医学会専門医指定研修施設としての役割も果たしている。

原著

- 1) Tsukioka Y., Nakao K., Moriyama K., Shintani T., Samukawa K., Itoh K., Takeshita F., Matsuda H.: Pharmacological study on Panax ginseng C. A. MEYER. XVI. Improving effects of Red Ginseng on peripheral circulation disorder, *J. Trad. Med.*, 25, 43-51, 2008.
- 2) 後藤博三，嶋田豊，引網宏彰，小林祥泰，山口修平，松井龍吉，下手公一，三瀨忠道，新谷卓弘，二宮裕幸，新澤敦，長坂和彦，柴原直利，寺澤捷年：Effect of Keishibukuryogan on Silent Brain Infarction over 3 Years, *日本東洋医学雑誌*, 59(3)471～476, 2008
- 3) 田原英一，新谷卓弘，三瀨忠道：半表半裏の発生学的考察，*日本東洋医学雑誌*, 59(6)813～820, 2008

症例報告

- 1) 新谷卓弘：心理検査からみた気虚病態の検討，*KAMPO EYES*, (35)4-5, 2008
- 2) 新谷卓弘：唾液アミラーゼ活性からみた気の失調の検討，*KAMPO EYES*, (36)6-7, 2008
- 3) 新谷卓弘：唾液アミラーゼ活性からみた口腔症状の検討，*KAMPO EYES*, (37)4-5, 2008
- 4) 新谷卓弘：紅参の唾液アミラーゼ活性に与える影響について，*KAMPO EYES*, (38)6-7, 2008
- 5) 新谷卓弘：不眠症の女性に茯苓四逆湯が有用であった一例，*KAMPO EYES*, (39)6-7, 2008
- 6) 新谷卓弘：アレルギー性鼻炎に対して八味地黄丸が有用であった一例，*KAMPO EYES*, (40)4-5, 2008

著書

- 1) 『漢方の目で健康を考える』(森山健三著，医歯薬出版社，2008)

総説・資料・その他

- 1) 新谷卓弘：心身医療と漢方～五臓と心理テストの応用～，*大宮醫師会報*, 124-137, 2008. 2. 10
- 2) 新谷卓弘：40代からの「女性ホルモン」との付き合い方～漢方～，*日経ヘルスプルミエ*, 66-67, 2008. 8. 1
- 3) 新谷卓弘：関西レポート(61)振り回され症候群(2報)，*和漢薬*, (665)9, 2008
- 4) 新谷卓弘：「氣を科学する」学会が開催されます！，*漢方研究*, (440)10, 2008
- 5) 森山健三：古典解説”傷寒論④”，*KAMPO EYES*, (36)14-17, 2008
- 6) 森山健三：古典解説”傷寒論⑤”，*KAMPO EYES*, (38)16-17, 2008
- 7) 森山健三：欧米のハーブ解説(第19回)，*和漢薬*, (659)14-16, 2008
- 8) 森山健三：欧米のハーブ解説(第20回)，*和漢薬*, (663)7-10, 2008
- 9) 森山健三：欧米のハーブ解説(第21回)，*和漢薬*, (665)12-15, 2008
- 10) 森山健三：欧米のハーブ解説(第22回)，*和漢薬*, (666)16-18, 2008
- 11) 森山健三：欧米のハーブ解説(第23回)，*和漢薬*, (667)10-14, 2008
- 12) 森山健三：続欧米のハーブ(第66回)“MEADOWSWEET”，*大阪府薬雑誌*, 59(1)45, 2008
- 13) 森山健三：続欧米のハーブ(第67回)“MISTLETOE”，*大阪府薬雑誌*, 59(2)62, 2008
- 14) 森山健三：続欧米のハーブ(第68回)“MOTHERWORT”，*大阪府薬雑誌*, 59(3)37, 2008
- 15) 森山健三：続欧米のハーブ(第69回)“MUGWORT”，*大阪府薬雑誌*, 59(4)47, 2008
- 16) 森山健三：続欧米のハーブ(第70回)“MULLEIN”，*大阪府薬雑誌*, 59(5)60, 2008
- 17) 森山健三：続欧米のハーブ(第71回)“MUSTARD”，*大阪府薬雑誌*, 59(6)82, 2008
- 18) 森山健三：続欧米のハーブ(第72回)“MYRRH”，*大阪府薬雑誌*, 59(7)62, 2008
- 19) 森山健三：続欧米のハーブ(第73回)“MYRTLE”，*大阪府薬雑誌*, 59(8)76, 2008
- 20) 森山健三：続欧米のハーブ(第74回)“NETTLE”，*大阪府薬雑誌*, 59(9)72, 2008
- 21) 森山健三：続欧米のハーブ(第75回)“NIGHT-BLOOMING CEREUS”，*大阪府薬雑誌*, 59(10)49, 2008
- 22) 森山健三：続欧米のハーブ(第76回)“NUTMEG”，*大阪府薬雑誌*, 59(11)45, 2008
- 23) 森山健三：続欧米のハーブ(第77回)“OATS”，*大阪府薬雑誌*, 59(12)53, 2008
- 24) 月岡康行：生薬の安全性について“黄芩は果た

- して安全か？”，KAMPO EYES, (35)16-18, 2008
- 25) 月岡康行：日本の民間薬(25) “問荊”，KAMPO EYES, (36)4-5, 2008
- 26) 月岡康行：生薬の安全性について “甘草の有害反応とその対策”，KAMPO EYES, (37)16-18, 2008
- 27) 月岡康行：日本の民間薬(26) “絲瓜”，KAMPO EYES, (38)4-5, 2008
- 28) 月岡康行：日本の民間薬(27) “山査子”，KAMPO EYES, (39)4-5, 2008
- 29) 月岡康行：日本の民間薬(28) “木天蓼”，KAMPO EYES, (40)16-18, 2008
- 30) 月岡康行：民間薬のお話(その 5) “南天実”，和漢薬, (656)10-11, 2008
- 31) 月岡康行：民間薬のお話(その 6) “薏苡仁”，和漢薬, (657)3-4, 2008
- 32) 月岡康行：民間薬のお話(その 7) “蒲公英”，和漢薬, (658)12-13, 2008
- 33) 月岡康行：民間薬のお話(その 8) “藜蘆”，和漢薬, (659)7-8, 2008
- 34) 月岡康行：民間薬のお話(その 9) “虎耳草”，和漢薬, (660)3-4, 2008
- 35) 月岡康行：民間薬のお話(その 10) “牽牛子”，和漢薬, (661)6-7, 2008
- 36) 月岡康行：民間薬のお話(その 11) “ゲンノシヨウコ”，和漢薬, (662)8-9, 2008
- 37) 月岡康行：民間薬のお話(その 12) “西瓜”，和漢薬, (663)16-17, 2008
- 38) 月岡康行：民間薬のお話(その 13) “桔梗”，和漢薬, (664)16-17, 2008
- 39) 月岡康行：民間薬のお話(その 14) “枸杞子”，和漢薬, (665)10-11, 2008
- 40) 月岡康行：民間薬のお話(その 15) “木通”，和漢薬, (666)13-14, 2008
- 41) 月岡康行：民間薬のお話(その 16) “車前子と車前草”，和漢薬, (667)7-8, 2008

学会発表

- 1) 松田秀秋, 平田規子, 劉鵬, 野口秀人, 難波健輔, 能味堂郎, 飯沼宗和, 中尾紀久世, 森山健三, 新谷卓弘：コシヨウ科キンマ (*Piper betle* L.) 葉のキサランチンオキシダーゼ阻害作用に関する研究, 日本薬学会第 128 年会, 横浜, 2008. 3. 26
- 2) 田原英一, 新谷卓弘, 三瀧忠道：半表半裏は発生・解剖学的に鰓弓関連領域と一致性を認める, 第 59 回日本東洋医学会学術総会, 仙台, 2008. 6. 7
- 3) 高屋豊, 新谷卓弘, 森山健三, 中尾紀久世, 月岡康行, 新澤敦, 二宮裕幸, 山本篤：釣藤散が

有効であった正常水頭症の一例, 第 59 回日本東洋医学会学術総会, 仙台, 2008. 6. 7

- 4) 後藤博三, 永田豊, 引網宏彰, 嶋田豊, 新谷卓弘, 三瀧忠道, 柴原直利, 関矢信康：高血圧症患者における和漢薬治療の精神症状と血圧変動に及ぼす影響, 第 59 回日本東洋医学会学術総会, 仙台, 2008. 6. 8
- 5) 後藤博三, 岡洋志, 引網宏彰, 谷川聖司, 野崎和也, 小尾龍右, 柴原直利, 新谷卓弘, 三瀧忠道, 嶋田豊：慢性腎臓病における補中益気湯の効果, 第 25 回和漢医薬学会学術総会, 大阪, 2008. 8. 30, 31
- 6) 天津朗典, 新谷卓弘, 森山健三, 中尾紀久世, 高屋豊, 泉谷悟, 平野智子, 陣内里佳子, 月岡康行, 曾和智子：漢方薬にて新生疹抑制効果の認められない尋常性痤瘡に対する塩酸オロパタジンの効果, 第 25 回和漢医薬学会学術総会, 大阪, 2008. 8. 30, 31
- 7) 松田秀秋, 得永雅士, 難波健輔, 中尾紀久世, 森山健三, 新谷卓弘, 前島義郎：和歌山県産ブドウサンショウの生理活性成分, 第 25 回和漢医薬学会学術総会, 大阪, 2008. 8. 30, 31
- 8) 高屋豊, 新谷卓弘, 森山健三, 中尾紀久世, 天津朗典, 泉谷悟, 平野智子, 陣内里佳子, 新澤敦, 二宮裕幸：上部消化管内視鏡所見と舌苔との関連, 第 25 回和漢医薬学会学術総会, 大阪, 2008. 8. 30, 31
- 9) 月岡康行, 中尾紀久世, 森山健三, 新谷卓弘, 寒川慶一, 竹下文章, 稲葉一訓, 松田秀秋：薬用人参の血液流動性亢進作用に関する研究, 日本生薬学会第 55 年会, 長崎, 2008. 9. 20
- 10) 新谷卓弘：茶花の臨床研究, 第 2 回国際茶花シンポジウム, 大阪, 2008. 9. 25
- 11) 新澤敦, 堀江延和, 山本美由紀, 長山紀子, 高屋豊, 山本篤, 二宮裕幸, 新谷卓弘：難治性の異常知覚に逐瘀湯加減が有用であった 2 例, 平成 20 年度日本東洋医学会関西支部例会 (和歌山), 大阪, 2008. 10. 26

講演・その他

- 1) 新谷卓弘：第 17 回「漢方診療三十年」の解説～真武湯から人参湯～, 西日本医師漢方アカデミー, 大阪, 2008. 2. 23
- 2) 新谷卓弘：第 18 回「漢方診療三十年」の解説～人参湯、茯苓飲、五苓散～, 西日本医師漢方アカデミー, 大阪, 2008. 4. 19
- 3) 新谷卓弘：第 19 回「漢方診療三十年」の解説～五苓散、半夏厚朴湯、大建中湯、四逆輩～, 西日本医師漢方アカデミー, 大阪, 2008. 6. 21
- 4) 新谷卓弘：第 20 回「漢方診療三十年」の解説

～大建中湯、四逆輩、呉茱萸湯、半夏白朮天麻湯～，西日本医師漢方アカデミー，大阪，2008.10.18

- 5) 新谷卓弘：第21回「漢方診療三十年」の解説～麦門冬湯、茵陳蒿湯、大黃附子湯、木防己湯～，西日本医師漢方アカデミー，大阪，2008.12.20
- 6) 新谷卓弘：こんな時には漢方を(第6回)『「血」の異常を理解する』，第9回近畿漢方研修会，大阪，2008.1.10
- 7) 新谷卓弘：こんな時には漢方を(第7回)『「血」の異常を理解する(第8話)』，第10回近畿漢方研修会，大阪，2008.3.13
- 8) 新谷卓弘：こんな時には漢方を(第8回の前半)『「血」の異常を理解する(第8話と腹診)』，第11回近畿漢方研修会，大阪，2008.3.13
- 9) 新谷卓弘：こんな時には漢方を(第8回)『陽明病とその治療(第9話)』，第12回近畿漢方研修会，大阪，2008.7.10
- 10) 新谷卓弘：こんな時には漢方を(第9回)『太陰病とその治療(第10話)』，第13回近畿漢方研修会，大阪，2008.9.11
- 11) 新谷卓弘：こんな時には漢方を(第10回)『陰証期とその治療(第11話)』，第14回近畿漢方研修会，大阪，2008.11.20
- 12) 新谷卓弘：五臓の考え方，第3回泉北漢方セミナー，大阪，2008.1.12
- 13) 新谷卓弘：臨床の場における東洋医学的気づき，平成19年度日本東洋医学会千葉県部会特別講演，千葉，2008.1.20
- 14) 新谷卓弘：25年の漢方外来を通じて伝えたいこと，富田林市聴覚障害者関係団体協議会特別講演会，大阪，2008.2.17
- 15) 新谷卓弘：生活習慣病に対する黄連解毒湯の応用について，第24回大阪漢方談話会学術講演会，大阪，2008.2.24
- 16) 新谷卓弘：民間～大学病院での漢方外来を振り返って，第17回愛媛東洋医学集談会教育講演会，愛媛，2008.3.8
- 17) 新谷卓弘：漢方治療の実際～「氣」にまつわるお話～，第42回α倶楽部研究会，大阪，2008.5.31
- 18) 新谷卓弘：東洋医学の「氣」の考えを活かす，大阪倶楽部第2696回定例午餐会，大阪，2008.9.17
- 19) 新谷卓弘：現代社会における東洋医学の役割，2008年度近畿大学校友会東京支部定期総会記念講演会，東京，2008.9.20
- 20) 新谷卓弘：25年の漢方診療からの気づき～振り返られ症候群の提唱～，2008年度神戸婦人

大学，神戸，2008.9.27

- 21) 新谷卓弘：氣の失調と漢方，平成20年度(第26回)湯本求真記念学術講演会，金沢，2008.9.28
- 22) 新谷卓弘：現代社会における消化器疾患と漢方診療，大正漢方胃腸薬発売30周年学術セミナー，東京，2008.11.5
- 23) 新谷卓弘：「心身の冷え」に対する東洋医学の試み，滋賀県立大学セミナー，彦根，2008.12.5
- 24) 月岡康行：生薬の安全性(2)，第22回KAMPO EYES シンポジウム薬局分科会，大阪，2008.5.17

他大学講義

- 1) 新谷卓弘：岡山大学医学部講義～歴史、陰陽、虚実、氣血水について～，岡山大学，岡山，2008.6.19
- 2) 新谷卓弘：岡山大学医学部講義～現代医療における漢方治療の実際～，岡山大学，岡山，2008.6.26

その他

2008年3月18日，大阪府上海市共同未来プロジェクト中国上海訪日団の見学を受け入れた。